ふわふわの毛、針でザクザク マスコットに

男も羊毛フェルト手芸

羊の毛の固まりに針を刺してマスコットや雑貨を作る「羊毛フェルト手芸」が男性や子どもに人気だ。作り方は簡単なのに、使う毛の量や針を刺す回数によって作品を様々に変化させることができるのが魅力。天然の手触りに癒やされるのも好評だ。（石井暖子）

針を使う羊毛フェルト手芸の講座「羊毛カフェ」。講師のフジイミツグさん（中央）は男性の参加者を優先している＝京都市で

手軽さ人気 味わい魅力

ふわふわの羊毛を適当な大きさにちぎって丸め、先がトゲ状になった専用針を突き刺す。グサグサと何度も続けるうちに繊維が絡み合い、硬くなる。この作業を繰り返すだけで、マスコットの胴体ができあがっていく。

東京・六本木で、キャラクター・デザイナーのフジイミツグさんが昨年11月に開いた講座「羊毛カフェ」。11人が挑戦。うち男性は6人だった。

硬くした胴体に目や手を付けるときも針で何度か刺すだけ。型紙を作ったり縫ったりする必要はない。初心者だった全員が約2時間で完成させた。

講座は昨年6月から東京、大阪、京都で開き4回目。フジイさんは「簡単なので、これまで手芸をする機会があまりなかった男性に向いている」と考え、男性を優先している。参加した学校職員の西村圭吾さん(38)は「手の中で形ができていく温かさが楽しい」と話す。

大阪市の大工、中田昌樹さん(44)も魅せられた一人。1年前から動物のマスコットを作り、ホームページで発表している。

木製の小物作りに熱中したこともあったが、道具が必要で、音やほこりが出るのが問題だった。この手芸は少しの羊毛と針があれば手軽にできるので出張先に持っていき、ホテルでも作るようになった。

これまでに作ったのはキツネ、パンダ、ライオンなど動物を中心に50種類。「羊毛を足したり減らしたりするだけでも様々な味わいが出るので奥深いです」という。

子ども向けの講座も盛況だ。静岡県浜松市の羊毛人形作家、渡辺容子さんは土、日と長期休暇に体験講座を開いている。夏休みは多いときで1日40人が訪れる。小学6年の次女と参加した母親(36)は「単純作業なので一緒に針を動かしながら話ができました」。

手芸用品のハマナカ（京都市）によると、羊毛フェルト手芸はこの2、3年で人気が高まり、関連商品の売り上げは前年の倍になっている。お湯やせっけんをかけてこすりフェルト化してバッグやルームシューズを作るのが主流だ。しかし最近は針を刺すだけの方法が人気上昇中だという。

同社は「羊毛の天然、癒やしという要素が時代に合い、受け入れられているのでしょう」とみている。

動物のマスコットを作っている中田昌樹さん＝大阪市で

羊毛フェルト手芸の作り方

The Asahi Shimbun

ひととき

私の「カンタービレ」

心をとらえるようなピアノの音を聞いたのは、骨髄が感染し炎症を起こす病気が悪化し、休職して1年半後。ようやくベッドから解放されたある日のことだ。

散歩しようと家を出て、聞こえた音に魅せられた私は、気づいたら、その家を訪ね、「教えていただけませんか」とお願いしていた。

ピアノは、大人になってから少し習った程度だったのに、先生がぜひやりましょうと示してくれた曲は、ショパンの「バラード4番」。弾いてくださるのを聞き、「絶対無理」と思った。音符が読めないし、指が開かない。

練習を始めたが、持病のせいで、鍵盤と楽譜を交互に見ると気持ち悪くなる。熱が出て1週間弾かないでいると、その前の何週間分もの努力が元のもくあみになる。

なんとか、苦労のかいあって、1年がかりでどうにか音取りはできたが、曲を追いかけるのがやっと。全然カンタービレ（歌うように）できないのだ。

病気は今でも一進一退。頭痛や微熱は常にある。寝込めば弾けない日が続くが、ピアノとこんな風に向き合えるのが、うれしいし、ありがたい。大好きだったピアノがテーマのドラマ「のだめカンタービレ」は終わったが、私の「バラード4番カンタービレ」は、まだまだ続きそうだ。

（群馬県高崎市 松本 由美子 病気休職中 44歳）

料理メモ

カキの香りパン粉焼き

【主な材料】

生ガキ150㌘、卵半個、パセリのみじん切り小さじ1、乾燥したバジル、タイム、オレガノ各少々、サラダ菜4枚、プチトマト4個

【作り方】

カキはザルに入れ、薄い塩水の中で振り洗いし、水気を切り、ふきんの上に並べて水気をふき取り、塩、コショウ各少々をふります。カキに小麦粉をまぶしてとき卵をからめ、パン粉大さじ1、パセリ、バジル、タイム、オレガノを合わせてまぶします。

フライパンにサラダ油大さじ1を熱してカキを入れ、両面を色よく焼き、中まで火を通します。器に盛って、サラダ菜とプチトマトを添えます。

1人前約150㌔カロリー。（約15分・2人前）